

大学生の行う共有行動

指導教員名：水越 康介教授

氏名：酒井 絢香

頁数：19 頁

内容

第1章 はじめに	2
第2章 先行研究	3
2.1. シェアリングについて	3
2.2. シェアリングの障害、インセンティブについて	5
2.3. 先行研究の意義と限界・リサーチクエスチョン	7
第3章 調査方法	8
3.1. 調査概要	8
3.2. 調査項目	8
第4章 調査結果	9
4.1. 調査による発見	9
4.2. 回答者の授業・教科書利用の特徴	9
4.3. フリマアプリでの教科書の売買の特徴	10
4.4. 中古教科書の知人同士での譲り合いとその特徴	11
4.5. シェアリングの障害	12
4.5.1. 財の性質	12
4.5.2. シェアリングに対する抵抗感	13
4.5.3. シェアリングを行う手段の不便さ	13
4.5.4. 代替手段の利便性	13
4.5.5. シェアリングが行われているという知識の伝達	14
4.6. シェアリングが行われやすくなる要因	14
4.7. 教科書以外のシェアリング	16
第5章 考察とまとめ	17
5.1. 考察	17
5.2. 結果に含まれていない、インタビューで明らかになったこと	17
5.3. まとめ	18
参考文献	19
参考資料	19

第1章 はじめに

皆さんは中古品売買を行うことがあるだろうか。BOOKOFF、GEOなどの店舗での中古品売買のみならず、インターネットの普及に伴い、フリマアプリなどのインターネット上の二次市場で中古品売買が容易となった。日本のフリマアプリ市場は2012年、Frilの登場によって始まった(山本、2020)。その後市場規模を拡大していき、2020年のCtoC-EC市場

規模は1兆9586億円と推計されている(METI,2021)。

そして、フリマアプリで売買される物のうち、大学生になじみ深いものとして、中古の教科書が挙げられる。私の友人たちの中で、「フリマアプリで教科書を売買したことがある」という声を聞く。実際、メルカリ(<https://jp.mercari.com/>)では、経済学の教科書である『マンキューミクロ経済学』が731件、『マンキューマクロ経済学』が423件出品されたことがある(2021年12月31日時点)。

また、大学生の教科書は先輩からおさがりをもらう、あるいは、すでにその授業を受けた友人の教科書ってもらうなどの行動も耳にする。

このような、学生がフリマアプリで中古の教科書を売買する行為、あるいは知り合い同士で譲る/譲られるなどの行為が、シェアリングとして行われているのではないかという点と、教科書のシェアリングから見つかる、シェアリングに影響する要因についてインタビュー調査を用いて調べた。

その結果、以下の三点が分かった。一点目は、フリマアプリを介した中古教科書の売買は、従来の店舗での中古品売買とは異なって捉えられており、純粋な市場交換というよりはシェアリング・アウト的な要素があるという点である。二点目は、知人同士での教科書の譲渡は、贈与ではなく、シェアリング・インに近いということである。三点目は、シェアリングに様々な影響を与える要因があるということである。

本論文の構成は以下の通りである。第2章では、先行研究でシェアリングの理論を概観し、リサーチクエスチョンを提示する。第3章では、本論文で行ったインタビュー調査の方法や概要を述べる。第4章では、インタビューの結果分かったことをリサーチクエスチョンに沿って整理する。第5章では、研究結果をまとめ、考察を行う。

第2章 先行研究

2.1. シェアリングについて

まず、シェアリングとは何を指す言葉なのかという点について、先行研究を通して確認する。Belk(2010)は、シェアリングが贈与や市場交換とどう異なっているかについて述べている。シェアリングのプロトタイプは子育てと家族内での資源配分であり、そのような共有は自然なものとして捉えられていること、信頼や絆と密接に結びついていることを述べている。また、権利だけでなく責任も共有していること、受け取る側が与えられた分を返すことが期待されていない、つまり互惠性が欠如しており、与える側と与えられる側の負担のバランスを誰も把握していないことを述べている。

また、市場交換のプロトタイプはパンを金銭で購入することであり、信頼や絆が生まれにくい、交換が同時進行であることが望ましいとされる、計算可能であるなどの特徴がある(Belk, 2010)。

贈与のプロトタイプはO. Henryの『賢者の贈り物』のような純粋で完璧な贈り物であり、贈与はシェアリングと区別するため、包装などの儀式が行われる(Belk, 2010)。

Belk(2010)は、贈与、シェアリング、市場交換は区別が曖昧で、定義するというより、プ

プロトタイプに近いかどうかで判断されると述べている。贈与には互恵性があり、贈与とシェアリングは絆や交流を生む点が共通していることや、市場交換であっても、知人のガレージセールなどでは、市場交換のプロトタイプと異なることを示している。

また、シェアリングには、シェアリング・インとシェアリング・アウトが存在する。シェアリング・インは所有権を共通とみなし、他者を自己の集合体である拡張自己に含ませるという意味で、家族内での共有というプロトタイプに近い。シェアリング・アウトは自己と他者を隔てる境界の外で他者に与えることであり、贈与や市場交換に近い (Belk, 2010)。

Belk(2010)はまた、以下の表にシェアリング、贈与、市場交換のプロトタイプと特徴をまとめている。

表 1			
プロトタイプと特徴			
	シェアリング	贈与	市場交換
プロトタイプ	1.子育て	完璧な贈り物 (賢者の贈り物のデラとジム) ¹	お店でパンを金を払って買う
	2.家庭の資源の共有と配分		
特徴	互恵的でない	見かけ上は互恵的ではないが、実際には互恵性のある交換	互恵的
	他者との社会的なつながり	見かけ上は義務的でないが、実際は義務的である	バランスの取れた交換
	事実上、または法律上の共有された所有権もしくはは用益権	所有の移動	長引かない義務
	金銭は不適切である	数を合わせるよう考える	所有権の移動
	特異な物	犠牲、ぜいたくさ	金銭的
	ネットワーク化された包含	受け取る人を喜ばせる	特異ではない
	譲渡できない	代替不可能	分割できる商品
	個人的	物を特異にする	打算

¹ O. Henry の小説、『賢者の贈り物』の主人公たち

	依存している	包装、儀式	調査
	共有の文脈	長引くアンバランス	譲渡可能
	社会的な再生	ネットワーク化された 包含	個人的ではない
	儀式ばっていない	譲渡できない	独立している
	愛情、思いやり	個人的、依存している	貿易/交換取引の文脈
		贈与/同盟形態の文脈	物の量的な関係
		人々の質的な関係	
		感謝	
	互恵的な期待	相互利益の懸念が表に 出ること	愛情、思いやり
	正式な金銭的負債	早すぎるお返しのギフト	根強い関係性
	強制的な服従	気前の良すぎるギフト	社会的に意味のあるお 金（例えば、遺産）
	交換	ギフトの詮索、調査	感謝
反対の兆候	感謝	ギフトの要望	
	貸し借り	年齢と富による互恵性 の例外	中古の物
	有料の介護	お金のギフト、証券の ギフト	関係性マーケティング
例外	ボランティアの匿名の チャリティー	法律で義務付けられた チャリティー（例え ば、ザカート）	高利貸しの禁止、シャ リア銀行

出所：Belk(2010) p.721 TABLE 1 をもとに筆者翻訳・作成

Belk(2014)によると、シェアリングには、「demand sharing」と「open sharing」という分け方も存在する。「demand sharing」はそのものを使いたいという要求を受けてはじめて共有されていることに気づくシェアリングであり、「open sharing」は最初から明らかになっているシェアリングである。

2.2. シェアリングの障害、インセンティブについて

シェアリングの障害とインセンティブについての先行研究を整理する。

シェアリングはそもそも物の所有の意識があって行われる。そのため、所有するものに対する所有感や愛着がシェアリングを阻害する。所有物が自己の拡大された一部であると感

じられるほど、所有物を保持したいという傾向が強まる(Belk, 2007)。

所有物を重視する「物質主義」もシェアリングの障害となる。物質主義を構成する3つの要素の1つが非寛容であり、物質主義者がシェアリングに対して消極的な理由の一部が説明できる(Belk, 2007)。

資源が少なく、共有すると自分が楽しめるものを失ってしまうかもしれないという認識も、シェアリングの妨げになっている。美術品を例に挙げると、公立の美術館や複製品などが供給されることが良い美術へのアクセスを民主化する。しかし、複製品が飾られていた美術館にオリジナルのみが飾られるようになった。その理由は、オリジナルのオーラが失われるという嘆きである。つまり複製品に代用させることで、希少なオリジナルが私たちの地位に与える力を失うという理由である(Belk, 2007)。

無形のものをシェアするインセンティブについて Belk(2007)は語っている。例えば、学問の文化においては、考えを生み出したり、シェアしたりする喜びに学者は動機づけられていると推測される。たとえ間接的に経済的な便益を楽しむとしても、結果として得られる名声や評判、自分たちが鼓舞するかもしれない人々に満足する。また、Human Genome ProjectのDNA配列において、一次データのシェアリングが行われたことが生物学と医学における大きな飛躍につながった。

Belk(2007)はインターネット上で所有物や生産物を譲り渡すインセンティブを論じている。インターネット上で私たちの所有物や生産物を譲り渡す動機として考えられるものの一つは、「安上がりな利他主義」である。歌、冗談、物語、私たちの身体、ウェブサイトに掲載したもの、ウェブ上で共有されている音楽ファイル、情報財などは失うことなくシェアリング、譲渡できるため、与えながら保つことができるのである。

第二の説明は、デジタル時代の部族社会への真の利他主義の回帰である、というものである。この見解では、インターネットは、情報の自由な流れが平等なアクセスを提供し、共有、伝達、贈与のグローバル・コミュニティへと導いている。インターネットが、人間の中に常に表面下に残っている何か、すなわち原初的で遊び心に満ちた贈与経済を促進する、という見方である(Belk, 2007)。

ここでいうモデルとは、コルヌコピアのことである。動機には、インターネットから受けた恩恵を何とかして「お返ししたい」という考え方が含まれるかもしれない。与えながら維持することは無関係ではないが、お返しすると同時にコルヌコピアの流れを維持するという感覚は、なぜ多くの人々がフリーライダーであることよりも共有することに関わる与えることを選ぶのかを説明するのに必要な要素である(Belk, 2007)。

所有物は自己を象徴するだけでなく、集団や階級に属していることを象徴するマーカー商品として機能することもある。また、特定の商品を共同で所有することで、希少資源とみなされるものを集団で管理していることを示し、地位や権力を伝えることができる。有形のものを肉親以外とシェアリングするインセンティブはシェアリングを行うことで、個人の可能性を超えたライフスタイルを実現できることである(Belk, 2007)。

シェアリングで親しくなった相手から恩を受ける可能性が低い場合は別の説明を考える必要がある。自分の幸運に報いるという意味や、純粋な利他主義、自分は寛大で役に立つ人間だという自己イメージを育むために他人を助けるということもある(Belk, 2007)。

Belk(2007)は有形のものをシェアリングするもう一つの動機は、非有形のもので確認された、「与えながら保持する」という動機の延長上にあるものがあると言っている。ここでいう「保持」は、返ってくることを期待して道具を貸すという文字通りの意味でも、もっとたくさん返ってくると信じるという象徴的な意味でもある。この原理は、「unlimited good」と呼ばれている。先ほどのコルヌコピアのイメージのように、「良いものは無限にある」と思っていれば、喜んで人に分け与えることができる。また、ある財の供給が限られていると考えている場合でも、それが無駄になるのであれば、分かち合おうとする傾向があるかもしれない。

Belk(2007)は、無形資産と同じように、自分という概念が肉親以外の人をも包み込むことが、有形資産を共有するもう一つのインセンティブになると言っている。近所、グループ、都市、州、国家など、他者とアイデンティティを共有していると感じるとき、その人々に対して共通の道徳的義務を感じている。そして、広い意味で、私たちは皆、共通の人間性を持っており、彼らが困っているときに共感できる相手呼び起こすかもしれない。

2.3. 先行研究の意義と限界・リサーチクエスチョン

先行論文により、贈与、市場交換、シェアリングの違いがより明確になった。また、シェアリングの種類についても、シェアリング・イン、シェアリング・アウト、open sharing、demand sharing という概念で分類された。また、シェアリングの障害として、愛着や物質主義、資源が少なく、共有すると自分が楽しめるものを失ってしまうかもしれないという認識が挙げられている。インセンティブについては、安上がりな利他主義、デジタル時代の部族社会への真の利他主義の回帰、お返しをしたいという思い、集団や階級に属していることを象徴するマーカー商品や、貴少資源を共有することで地位をあらわすこと、個人のライフスタイルの可能性を超えられること、自分の幸運に報いること、寛大な自己イメージを育むこと、いいものが無限にあると考えていること、自分という概念が肉親以外をも含むことがあることなどが挙げられている。

先行研究では、シェアリングやその周辺概念のさまざまな分類について述べられているが、日本の大学生の教科書の非正規な流通を調べることで、シェアリングの起こりやすさに影響を及ぼす要因が見つかるのではないか。そのため、本論文では日本の大学生間の教科書の非正規流通を、フリマアプリを介した流通と知人同士の流通の2パターンに分け、以下の3つのリサーチクエスチョンを設定する。

R.Q.1 フリマアプリを介した教科書の非正規流通はどのプロトタイプに近いのか。

R.Q.2 知人同士での教科書の非正規流通は上のどのプロトタイプに近いのか。

R.Q.3 大学生間の教科書のフリマアプリを介した非正規流通をシェアリング・アウトであると仮定し、知人同士での譲渡をシェアリング・インだと仮定する。その際、教科書の非

正規流通を通して見られる、シェアリングの起こりやすさに影響を及ぼす要因は何であるか。

次章以降は、インタビューをもとにしたリサーチクエスションの考察を行う。

第3章 調査方法

3.1. 調査概要

自分の知り合いである大学生に対し、インタビュー調査を行った。

時間は1時間程度で、人数は6人である。インタビューには、オンラインで会話できるツールを使用した。ZOOMの1対1通話と、LINE電話の2つの手段を使用し、実際に各回答者は下表に記載の手段を使用した。回答者には事前に「大学での教科書の購入や利用について教えてください。」という質問を伝え、回答を考えてもらった。

各回答者の情報を下の表に記載する。

ID	インタビュー手段	性別	大学	学部	学年	サークル・部・委員会
A	ZOOM 1対1	男	国公立	経済学・ 経営学系学部	4	運動系サークル 国際系サークル
B	ZOOM 1対1	女	私立	法学部 政治系	3	国際系サークル 勉強系サークル(1年生の時)
C	ZOOM 1対1	男	国公立	法学系 法律コース	4	ゲーム制作サークル 勉強系サークル 音楽系サークル
D	LINE 電話	女	国公立	経済学・ 経営学系学部	4	体育会運動部 子供と遊ぶサークル
E	ZOOM 1対1	男	国公立	情報系学部 アート系学科	4	ゲーム制作サークル
F	ZOOM 1対1	女	国公立	医学系学部 看護系学科	4	運動部

3.2. 調査項目

第一問である「大学での教科書の購入や利用について教えてください。」以外に、以下の要素について、その場で質問の形にして聞いた。

- ・教科書の手放し方
- ・教科書の購入・利用に関して新型コロナウイルス感染症の影響があったか
- ・学部における学び方・教科書の特徴

また、教科書の売買にフリマアプリを利用している人については以下の事項も聞いた。

- ・フリマアプリと知人のやり取りの違い
- ・フリマアプリと店舗での中古品売買の違い

・フリマアプリで売買するものと売買しないものの違い

また、シェアリングの理論をインタビューの途中で説明し、その上で身の回りでシェアリングに該当することがあるかを聞いた。

第4章 調査結果

4.1. 調査による発見

大学生に対するインタビューの結果、大きく三つの発見があった。一つ目は、フリマアプリを介した教科書の非正規の流通は、一般的な市場交換とは異なって捉えられていることである。二つ目は、知人に対して教科書を譲渡することがあり、その譲渡では互恵性が欠如していることである。三つ目は、教科書の非正規の流通に影響を与える要因が多様であることである。先の二点は、Belkの議論から見て、シェアリング・アウト、シェアリング・インに分類されると考えられる。また、三点目はシェアリングの障害・インセンティブである。以下、具体的に見ていこう。

4.2. 回答者の授業・教科書利用の特徴

本論文のリサーチクエスションの直接的な回答とはならない部分でも、各回答者で授業や教科書の利用、教科書の購入の有無や購入時期に違いがあった。それが各回答者の教科書のシェアリングに間接的に関わっていると感じたため、以下に記載する。

A：「購入価格を抑えることを一番に考えている。教科書を使用せず、レジュメのみで済ませることができる授業が多くあった。教科書を指定しているものでも、レジュメだけで学習出来そうなら、教科書を買わずにすませた。フリマアプリに売っている教科書が古い版であっても、先生からの指定が特になく、内容がほぼ同じならば、安い方を選ぶ。新型コロナウイルス感染症の影響で、1ヶ月で帰ってくるようになったが、ウィーンに留学をした。その際も、レジュメのみで受けられる授業を受けた。」

B：「学期初めに買っても、実際に授業を受けると教科書を使わないことがあるため、テスト前に購入している。テスト前の時期に買うため、メルカリでは売り切れていることが多い。テストの直前で時間がない時には即日配達がある Amazon を使う。テスト直前の学習に使うため、マーカーありの教科書をあえて選ぶことがある。教科書は3千円くらいの値段がするので高いと感じ、中古を買う。」

C：「通年の授業が多く、教科書はテスト前の時期に使う。通年のため、テスト範囲が広く、半年ごとの授業の人たちがうらやましいと感じる。学部全体として、テスト前の学年末に急に勉強しだす学生が多い。専門書はハードカバーで値が張ると感じる。副教材も購入する。」

D：「1年生のときには教科書を買って揃えた。しかし、2年生以降は、レジュメのみで済ませることができる授業はなるべく教科書を買わないようにした。教科書の指定がある授業でも、その教科書をあまり使わないと感じたら、買わなかった。」

E：「毎回行う制作が最終制作に繋がっているため、他の学部・学科のように期末試験を意識するというわけではない。教科書も毎回の授業やその予習のために使っている。教科書を買

っていない学生が多く、そのような人たちは、教科書がない分をインターネット上で調べて済ませている。買いたいと思った教科書の価格が2万円したときに、高いと感じた。」

F：「必修の授業がびっしりと入っているため、同じ学科の人全員が同じ授業を受けている。授業の自由度がなく、教科書セットというものが生協で売られている。グループワークなどが多いため、学科の全員が顔見知りである。教科書は毎回の授業で使う。さらに、実習記録の書き方についてなど、授業で説明されないことを調べるための本も購入している。基本みんな教科書セットを買うため、先輩から教科書をもらわなくてもいいことが多いが、病院での実習が存在するため、実習の後、その場で間に合わせて図書館を使ったり、教科書を見せ合ったりして調べるということをする。そのとき使う本として、学校のロッカーに本を置いておけるよう、教科書が2、3冊あってもよいかもしれない。みんな教科書セットを買っているが、買った教科書セットを箱からも出さず、全く使っていない人もいるらしい。」

AさんとDさんは同じ系統の学問を専攻しており、レジュメのみで受けられる授業は教科書を購入せずに受けているという点で共通している。より多くの学生について調べなくては傾向が掴めないが、授業において教科書を使わない、買わないという行動を取りやすい環境が経済学・経営学系の学生にはあるのかもしれない。

BさんとCさんは同じ系統の学問を専攻しており、テストの前に教科書を使うという点が共通している。同じ法学系の学生であることで、期末テストの比重や、授業のスタイル等が共通し、学習への教科書の利用法が似ているのかもしれない。

Eさんは毎回の授業で行う制作がそのまま期末につながるため、毎回の授業に教科書を使っている点が特徴である。Fさんは学科全員が授業で知り合いになる点や、実習が存在する点、毎回の授業で教科書を使っている点が特徴である。

以下の節では具体的にリサーチクエストンについて確認する。

4.3. フリマアプリでの教科書の売買の特徴

この節ではR.Q.1についてインタビュー調査をもとに分析していく。回答者A、Bは中古での教科書の購入を行っており、中古での販売も行いたいと回答した。彼らは、フリマアプリとその他の売買の違いも語った。

A：「自分は教科書を入手する際、価格を抑えることを最優先に考える。そのため、選択肢が多く、値段の下がりやすいメルカリを主に使っている。出品者が同じ大学の人であるという情報があれば、相手も自分との取引がしやすいだろうと感じ、プラスの判断材料となる。」
「フリマアプリであるメルカリと店舗の中古販売を行うBOOKOFFの違いとしては、BOOKOFFは不特定多数が触れたという感じがするが、メルカリは個々の取引が1対1であるため、あまり多くの人の手に触れていないイメージがある。」

これは、従来の店舗での中古品売買とフリマアプリを介した中古品売買の捉え方が異なるということを説明している。従来の店舗で売られる中古品は多くの人の手に触れる、つまり市場交換を行う店の陳列物により近いものとして捉えられている。一方で、フリマアプリで売買される中古品は1対1で取引されるものと捉えられており、純粋な市場交換とは少

し異なる捉え方をされている。また、相手が自分との取引をしやすいだろうということが判断の上でプラスの材料となる点が、シェアリングの特徴である思いやりに相当すると考えられる。

B:「Amazonは『お店』という感じで、メルカリは『素人』が売っているという意識がある。メルカリは『素人』だから値段も安くなるのだと感じるし、出品者と購入者の距離が近いと感じる。違いは感じているが、それでどちらが良い、悪いということはない。」

「Amazonは『お店』でメルカリは『素人』」というのはAmazonでの中古売買とフリマアプリでの中古売買について、売る人に対して感じる違いを説明している回答である。Amazonでの中古売買は相手がお店であると感じると言われているところから、市場交換のプロトタイプに近いと考えられる。また、フリマアプリでの中古売買は素人のイメージだという発言から、フリマアプリでの中古売買は純粋な市場交換というより、贈与やシェアリングに近い要素があるのだろう。

また、二人は、もしフリマアプリで教科書売る場合、売る教科書の価格を、相手の希望に合わせて下げても良いと語った。この回答から、フリマアプリでの中古品売買において、互恵性はあまり重視されていないと分かり、その点でもフリマアプリでの中古品売買は市場交換と異なっており、シェアリングに近い性質を持っていると言える。

これらの点に加え、贈与のような儀式性がない点、取引の相手を拡張自己の一部と捉えてはいない様子である点を考慮すると、フリマアプリでの中古教科書の売買はシェアリング・アウトに分類される性格を持っているのではないかと考えられる。また、出品されることで共有されていることが始めから分かる点から、これはopen sharingにあたると考えられる。

4.4. 中古教科書の知人同士での譲り合いとその特徴

中古教科書の知人同士での譲り合いについて、実際に譲った/譲られたという回答が得られた。また、周囲で譲っている人/譲られている人を見たという回答も集まった。

A:「知り合いから自分の教科書を譲ってほしいと言われたことが何度かあり、その際特にこちらから条件を付けることはない。むしろ、相手の求めている教科書と自分の持っている教科書の版が違うとなったときに、それでも平気なのかを確認したことがある。」

B:「附属高校が存在するため、附属高校の出身者はすでに先輩とのネットワークがあり、先輩から教科書をもらうことが多いようだ。自分が人から譲ってほしいといわれたら、コミュニケーションの一環として相手にテストの情報を求めるかもしれないが、金銭は特に求めない。」

C:「サークルで先輩から教科書を譲ってもらったことがある。1年生で初めて教科書をもらった際、『代々受け継がれているものだから、お礼はいらない』と言われたことが印象的だった。自分も後輩に対し、同じように無償で譲ることがある。中古品は基本的に買わない。しかし、中古であっても、知り合いからもらう場合は前の持ち主が分かるので良い。」

D:「1年生の新歓時期に、周囲の1年生がサークルの先輩から教科書をもっているのを見た。特定の学部がというわけではなく、さまざまな学部の子がもっていた。」

F:「先輩から教科書をもっている同級生を見た。自分にも先輩が教科書をくれるという話が来たことがある。」

これらの回答では、知人同士での教科書の譲渡において、譲る側は譲られる側からの対価を特に求めていないことが分かる。これは、学生の知人同士での教科書の譲り合いには、市場交換や贈与の持つ互恵性が存在しないことを示している。よって、知り合い同士での教科書の譲渡はシェアリングに分類される行動だと考えられる。さらに、Aさんは、自分の利益ではなく、相手の利益を思いやるようなエピソードを語った。また、Cさんは、知らない人との中古品のやりとりはしたくないが、知り合いならば良いと回答している。これは、教科書を譲る/譲られる対象である知人を、自他の境界外だと捉えず、拡張自己の一部と捉えているからだと考えられる。他者を拡張自己の一部として捉えているという特徴から、教科書の知人同士での譲渡は、シェアリング・インに分類される行為だと考えられる。そして、教科書を譲る側から話を持ち出した場合は open sharing にあたり、もらう側がほしいと言いつつ出した場合は demand sharing である。また、共時的に行われるシェアリングについても回答があった。

C:「同じ学部の明るい人たちは、教科書を友人同士で割り勘にしていた。その人たちはテスト前の時期になると、共有した教科書を回し読みしていた。」

共時的に教科書を割り勘にして回し読みをすることも、一つの教科書を他者と共有しているという点でシェアリングであると言える。はじめからシェアされていることが分かっている点、友人同士でのシェアリングであり、他者を拡張自己に含めていると捉えられる点から、これは open sharing でシェアリング・インに分類できると考えられる。

4.5. シェアリングの障害

シェアリングの行われやすさに影響を与える要因として、この節では、負の影響を与える要因、つまり障害について論ずる。次節では、正の影響を与える要因、つまりインセンティブを生む要因について論ずる。

シェアリングの障害として、以下の 5 点が挙げられる。財そのものの性質（財の寿命）、シェアリングへの抵抗感、シェアリングを行う手段の不便さ、代替手段の利便性、シェアリングが行われているという知識が伝達されていないことである。以下でインタビューの回答とともにそれぞれ確認する。

4.5.1. 財の性質

財の性質について、回答者 E から財の寿命が短いために共有しづらいという回答を得た。また、教科書を使う期間が他の回答者より長めの傾向にあった。

E:「情報系の教科書は入れ替わりが激しい。中古になるのを待っていると、もっと（新しい情報に対応した）いいものが出る。そのため、中古を買うということがそもそもできない。（持っている教科書の中で）2割ほどは売りたいと思うが、3年もたっていると、古いといわれる。例えば、『Unity2018 最新対応』と書かれた教科書があるが、現在の Unity の最新バージョンは 2021 である。」「毎回の授業で行う制作が最終課題につながるため、期末テス

トに向けて教科書を使うというより、毎回の授業の中で教科書を使っている。」

Eの使う教科書は短い期間で入れ替わるため、他学部の学生の使う教科書と比べ、寿命が短い。そして、講義の行われている期間は基本的に教科書を使用しているため、財の使用期間と財の寿命の差が他の回答者に比べて少ない。このように、財の使用期間と財の寿命が近くなる場合、財の通時的な共有が難しくなり、それが共有を行う上での障害となりうる。

4.5.2. シェアリングに対する抵抗感

シェアリングに対する抵抗感について、回答者Cから知らない人の物を使いたくないという回答を得た。また、複数の回答者が、新品の教科書が手に入る方が良いと思うと回答した。

C：「中古であっても、知り合いからもらう場合は前の持ち主が分かるので良い。買うとなると前の持ち主が分からないので嫌だ。古着は買うこともあるが、それも限定品などの理由があって中古を購入している。物を中古で売ることあまりしない。」

知り合いから中古をもらうことは良いが、中古を買うのは嫌だという回答は、自己と他者の境界外の人との共有であるシェアリング・アウトについて、抵抗感を抱く人がおり、その抵抗感がシェアリングの障害となることを示している。また、回答者C、D、Eから出た「新品が良い。」という回答も、シェアリングに対する抵抗感に近い回答だと考えられる。

4.5.3. シェアリングを行う手段の不便さ

フリマアプリでの共有を行わない理由として、多くの回答者がシェアリングを行う手段の不便さを挙げていた。特に、買うことではなく、売ることに対し不便さを感じるという回答が多かった。

A：「メルカリでの中古販売も行いたいですが、まだ梱包などの準備ができていないため、していない。」

B：「使った教科書を販売したいが、販売するための準備が面倒で、結局販売はしない気がする。」

E：「メルカリはヤフーオークションなどに比べるとやり取りを少なくし、即決ができるようになったけれども、それでも、商品の状態などが分かりにくいし、面倒くさい。それならば、新品を買った方が確実に新品だとわかるので良い。ある程度使い慣れていれば商品の状態がよさそうかどうか、見分けがつくとは思いますが自分はそうではない。また、メルカリで中古の本を売るにしても、すぐ売れるわけではないので在庫をしばらく手元に持っておくことになる。」

「販売の準備が面倒だ」という回答のように、シェアリングを行う手段に不便さがある場合、「教科書を手放したい。」「シェアリングを行いたい。」という感情よりも「面倒だ。」という感情がまさり、手段の不便さがシェアリングの障害となりうる。

4.5.4. 代替手段の利便性

シェアリングの代替手段である市場交換の利便性が高いという回答を得た。利便性が高い市場交換を選択しやすくなるのが、シェアリングの障害となることがある。

B:「テスト直前のときには、間に合わなくなると困るので、メルカリで教科書を探すよりも即日配達がある Amazon を利用する。」

F:「学部みんなが同じ授業を取るため、教科書セットというものが生協で売られている。それを毎年購入していた。先輩から教科書をもらえるという話が来ても、足りない教科書の一つずつそろえて入手するのが面倒で、もらったことはない。もしフリマアプリで教科書が安く手に入るとわかっているけど、教科書を揃える面倒さを考え、買わなかったと思う。」

B の回答では、即日配達があること、F の回答では、教科書がまとまっており、一つずつ選ぶ必要がないことが、市場交換を選択することの便益としてあげられている。これらの回答では、シェアリングの代替手段である市場交換の利便性が高いため、シェアリングを行うことによる機会費用が、シェアリングの便益よりも高いと捉えられている。このような場合に、シェアリングが選択されず、市場交換が行われることがあるということが分かった。

4.5.5. シェアリングが行われているという知識の伝達

フリマアプリを介してシェアリングが行われているということを知らず、フリマアプリの利用をそもそも思いつかなかったという回答があった。この場合、シェアリングを行うことが、教科書利用者の選択肢になっていない。

D:「そもそも教科書の中古で買うという発想がなかった。大学の友人とフリマアプリについての話をしたこともない。フリマアプリのアカウントも持っていない。」

この回答は、フリマアプリで行われているシェアリングについて知らないことが原因で、フリマアプリでシェアリングを行うという発想をそもそも持っていなかったと述べている。シェアリングを行うことが選択肢に含まれていなければ、シェアリングを行うことは選択されない。そのため、この回答では、シェアリングが行われているという情報が伝達されないことがシェアリングの障害となりうることを示している。

この節の議論をまとめると、4.5.1. ~4.5.2. のシェアリングの障害の内、4.5.1. と 4.5.5. はシェアリングを行うことが物理的に難しく、結果としてシェアリングが行われにくいというものである。4.5.2. はシェアリング全般を行うかどうかに関わる障害であり、精神的要因によるものである。4.5.3. と 4.5.4. はシェアリングと市場交換が選択肢として比較される際、どちらを選ぶかに影響を及ぼす要因である。

4.6. シェアリングが行われやすくなる要因

シェアリングが行われやすくなる要因として、シェアリングする物を持っている人のネットワークに属していることが挙げられる。シェアリングする物を持っている人のネットワークに所属していると、シェアリングをしたいという人と出会う機会が増える。そして、同じネットワークに属する人を拡張自己の一部だと捉えやすくなるからである。また、Belk(2007)にも挙げられていた、物が無駄になると考えられれば、シェアリングされる傾向になるという行動も見られた。

A:「同じサークルの他学部の人から、経済系、経営系の授業を受けたいが、どんな教科書を使うかを聞かれたり、教科書を譲ってほしいといわれたりしたことがある。」

B：「附属の高校の出身者は先輩とのつながりが強く、教科書をもらう約束をしているらしい。あるサークルでは1年生の必修科目の頻出問題が配られる。同じ学部の人が集うサークルが存在する。」

C：「同じ学部の人が多く集うサークルが存在する。そのサークルの先輩に、教科書を譲ってもらったことがある。あるサークルの中で授業の過去問を自由に見られるように共有されている。」

サークルや附属高校で同じ学部の先輩・後輩と知り合いになったと言っているように、同じ教科書を使う人と知り合いになり、結びつきを得ることで、教科書をもらう機会・譲る機会ができる。シェアリングには相手が必要なので、シェアリングを行う対象となる相手が見つかるネットワークが存在すると、シェアリングが行われやすくなる。

また、回答者Bが附属高校の人はつながりが強く、教科書を譲ってもらう約束をしていたと言っているが、これは他の高校の出身者とは異なり、附属高校の人が拡張自己の一部として捉えられているからだと考えられる。同様に、回答者Cも知り合いであればシェアリングを行い、赤の他人では行わないと回答している。

C：「同じサークルの先輩から中古の教科書を譲ってもらったことが何度かある。中古であっても、知り合いからもらう場合は前の持ち主が分かるので良い。買うとなると前の持ち主が分からないので嫌だ。後輩に教科書を譲ったこともある。」

回答者Bの挙げた附属高校の出身者や、回答者Cの挙げた同じサークルに所属しているメンバーは、自他の境界外の他者とは異なって捉えられることがある。この発言は、同じサークルのメンバーであることで、他者が拡張自己の一部のように捉えられることがあると示している。これは、Belk(2007)の言っていたインセンティブの一つである、「自分という概念が肉親以外の人をも包み込むこと」に当てはまる。また、譲る、あるいは販売したいと考える教科書は今後自分が使わないと思っている教科書であることが多い。

A：「将来仕事で使うと思うものは手放すつもりはない。必要がないと思うものをフリマアプリで売ったり、知人に譲ったりしたい。」

C：「基本的な教科書は自分で見返すかもしれないから取っておいている。その講義でしか使えないような教科書は後輩に譲るなどの行動を取る。」

D：「教科書に対してあまりこだわりがない。」

E：「教科書は見返すために取っておくが、それでも2割程度の本は使わないと思うので手放したい。」

F：「将来就職先での配属によってどんな教科書を使うのかわからないため、教科書を取りあえず手元に置いておくつもりである。」

将来自分が使うと思うものは手放さず、自分がもう使わないと思ったものはシェアリングを行ってもよいと考えるのは、Belk(2007)がシェアリングのインセンティブとして挙げた、無駄になると思うとシェアリングが行われやすくなるというものに該当する。

4.7. 教科書以外のシェアリング

インタビューの途中でシェアリングとその周辺概念のプロトタイプや、シェアリング・インとシェアリング・アウトの違いについて説明した。その上で、回答者B以降には、自分の身の回りで思い当たるシェアリングについて挙げてもらった。

B:「あるサークルで、1年生の必修の科目に関して、テストの頻出問題をまとめたものが配られる。それがシェアリングにあたると思う。大学の講義に関して、インターネット上の情報共有サイトで調べて何を履修するか考えることがある。」「大学外のシェアリングに関しては、オタクの情報共有が挙げられると思う。取り合いの競争となるグッズの販売情報をSNSで発信するファンがいる。自分の競争相手を増やすような行為であるのに、そのようにシェアリングを行っている人に対し、すごいと思う。」

C:「あるサークルでテストの過去問が共有されている。持ち出しはできないが、自由に見ることができる。音楽系のサークルでは、個人の持っている楽譜が共有物のようにになっている。ゲーム制作サークルでは、制作活動に使う本や、絵を描く機材などが共有されている。サークル外の人とのプログラムについての情報を共有することもある。」

D:「友人同士でテストや課題の情報を共有することが挙げられると思う。授業を休んだ子に対してテストや課題の情報を教えることがある。部室に読み終えた個人所有の漫画を残していく人がある。」

E:「研究室のものとして教科書を買ってもらえることができる。そのような教科書は研究室のものではあるけれど、かなり自由に使用できる。研究室には、先輩たちが個人で使っていた就活に関する本も残されている。」「同じ学部の情報学科では、研究室にサーバーを置き、共有しているらしい。」「サークルで就活の情報、インターンシップの情報がシェアされている。」「友人同士での情報の共有としては、ネットで調べても、教科書で調べても出てこず、論文レベルになってしまうものは、分かる人に聞くなど情報の共有が行われる。」「大学外の話で言うと、データの売買はシェアリングなのではないか。無限に複製できるというデータの性質により、個々の消費者が安い負担を負うだけで莫大な開発費を回収できる。」

F:「多くの人がある部活では授業や先生に関する情報が多く回っているらしい。同学年が顔見知りであるため、色々な部活の人が聞いた情報を耳にすることがある。附属病院に関する情報や、国家試験の本の情報も先輩から回ってくる。」

テストや課題の情報など、教科書以外のシェアリングでは、情報のシェアリングを行っていたという話が多く寄せられた。これは、Belk(2007)の言う、「失うことなく譲る、シェアリングするということができる」ものであるためだと思われる。また、シェアリングされる有形の物として挙げられているものは、サーバーや本、機材、楽譜などである。これらは、貸してから返してもらうなどの行動がとれる道具であり、これらも失うことなくシェアリングすることができる。

第5章 考察とまとめ

5.1. 考察

本章では、第4章でのインタビュー分析の結果から、リサーチクエスチョンを分析し、本論文をまとめる。この節で分析と考察、次の節でまとめを行う。

インタビュー分析により、R.Q.1については、フリマアプリでの購入は行っている、販売は行っていないという回答者ばかりであったため、はっきりとした答えは得られなかった。ただし、フリマアプリでの中古品売買が市場交換のプロトタイプとは異なる性質を持っており、個人同士の取引のように捉えられていること、シェアリングの特徴である互惠性の欠如が見られることなどの点から、シェアリング・アウトに近いと考えられる。

R.Q.2については、知人同士での教科書の譲渡には互惠性が欠如していること、教科書を譲る/譲られる相手である知人を拡張自己に含めるような捉え方をしている人がいたことから、教科書の知人同士での譲渡はシェアリング・インに分類される行動だと考えられる。

R.Q.3については、さまざまなシェアリングの障害と行われやすくなる要因を発見した。今回の教科書の事例では、シェアリングそのものに関する障害だけではなく、シェアリングと他の選択肢を比較することで出てくる障害も見ることができた。シェアリング概念に対する障害として、見知らぬ人とのシェアリングへの抵抗感という回答が得られた。また、シェアリングが行われているという情報を知らないことや、財の寿命は、シェアリングを行う上での物理的な障害となりうる。代替手段の利便性や、シェアリングを行う手段の不便さは、シェアリングとその他の手段の比較を行う際に、シェアリングの障害となる。シェアリングが行われやすくなる要因として、シェアリングするものを持っている人のネットワークに属していることが挙げられる。シェアリングするものを持っている人のネットワークに属していると、物理的にシェアリングを行う機会が増える。さらに、同じネットワークに属している人を拡張自己の一部だと捉えやすくなる。また、教科書を自分が使わないだろうと思っているとき、それが譲る/フリマアプリで売るなどの行動を取るインセンティブとなる。Belk(2007)の議論にあった、無駄になると思っていることがその財をシェアリングするインセンティブとなることがこのインタビュー調査でも分かった。

5.2. 結果に含まれていない、インタビューで明らかになったこと

インタビューでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による影響についても回答を求めた。購入が増えた人、減った人それぞれおり、コロナ以前とそれほど大きく傾向が変わった人はいなかった。

A:「新型コロナウイルスの影響はあまり感じていない。授業自体を取り終えている時期だったので、コロナ前よりも教科書を買う量を減らした。メルカリでの購入の割合も減った。」

B:「テストのやり方や勉強の仕方など、大きく変わらなかったため、教科書の購入についても、ほとんど変化がなかった。中古の教科書を買わないようになるなどの変化もなかった。」

C：「教科書については特にはない。事前にオンラインでの申し込みになったという程度。」

D：「コロナの流行で教科書を買わなくなった。いらなくなった。」

E：「コロナ前より教科書を買う量が増えた。教科書が大学の図書館にあるので、コロナ前は図書館で教科書をすべて借りて、どれがいいか選んでから買っていた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大で、図書館に行くことが減り、特に選ばずに教科書をすべて買うようになった。」

F：「新型コロナウイルスの影響はあまりない。毎年教科書セットを購入している。」

このように、新型コロナウイルスの流行の影響については、あまり変化がないという回答が多く、購入量が増えたという人と減ったという人どちらもいた。そのため、新型コロナウイルスの流行と流行に伴うライフスタイル・授業スタイルの変化が教科書の入手、利用にもたらした影響に対し、はっきりと一定の傾向がわかるということにはなかった。しかし、新型コロナウイルスの流行以前からよく中古教科書を利用して回答者 B は、新型コロナウイルスの流行以降も中古教科書の利用に抵抗がない。回答者 A もフリマアプリでの購入割合を減らしたとは回答しているものの、全く購入しなくなったとは答えていない。また、新型コロナウイルス流行以前から、出来る限りレジュメのみで授業を受け、教科書を購入しないと回答した回答者 A、C は、新型コロナウイルスの流行以降、教科書の購入数が減ったと回答している。また、元から教科書をよく利用している E さんは教科書を買う量が増えたと回答し、同じく教科書をよく利用する F さんは、教科書の購入量が変わらないと回答した。以前の傾向に近い発言から、新型コロナウイルスの流行はあまり大きな変化をもたらさず、教科書の利用者は以前の傾向を維持する行動を取ることが多かったのではないかと考えられる。

5.3. まとめ

本論文では、シェアリングの特徴・分類に関する先行研究と、シェアリングの障害・インセンティブに関する先行研究から、3つのリサーチクエスチョンを設定した。1つ目は、フリマアプリでの教科書の非正規流通はシェアリング、贈与、市場交換のうち、どのプロトタイプに近いのかというリサーチクエスチョンである。2つ目は、教科書の知人同士での譲渡がシェアリング、贈与、市場交換のうち、どのプロトタイプに近いのかというリサーチクエスチョンである。3つ目は、大学生間の教科書のフリマアプリを介した非正規流通をシェアリング・アウトであると仮定し、知人同士での譲渡をシェアリング・インだと仮定した際、教科書の非正規流通を通して見られる、シェアリングの起こりやすさに影響を及ぼす要因は何であるかというリサーチクエスチョンである。

この3つのリサーチクエスチョンを、知人の大学生6人に対するオンラインインタビューを元に分析した。分析の結果、フリマアプリでの教科書の非正規流通はシェアリング・アウトだとは言いきれないが、シェアリング・アウト的な要素を含んでいることが分かった。知人同士での教科書の譲渡はシェアリング・インに分類される行動だと考えられることが分かった。また、シェアリングの障害やシェアリングの起こりやすさに影響を及ぼす要因は、

シェアリングそのものへの抵抗感以外に、そもそもシェアリングが教科書の入手/手放す手段として選択肢に入るかがあったと分かった。また、他の手段と比較するときに検討される利便性も要因となると分かった。

参考文献

Belk, R. (2007). Why Not Share Rather than Own? *The Annals of the American Academy of Political and Social Science*, Vol611, pp. 126-140.

Belk, R. (2010). Sharing. *Journal of Consumer Research*, Vol.36, No.5, pp. 715-734.

Belk, R. (2014). You are what can access: Sharing and collaborative consumption online. *Journal of Business Research*, Vol67, pp.1595-1600.

山本晶 (2020) 「二次流通市場が一次流通市場における購買に及ぼす影響」『マーケティングジャーナル』、2020年40巻2号、29-41頁。

参考資料

経済産業省「電子商取引に関する市場調査の結果を取りまとめました」

<https://www.meti.go.jp/press/2021/07/20210730010/20210730010.html>

(アクセス日 2022年1月12日)

メルカリ HP

<https://jp.mercari.com/>

(アクセス日 2021年12月31日)